

平成24年度
鹿児島大学編入学試験
理学部数理情報科学科
数学

平成23年10月19日(水) 9:00~11:00

注意

1. 配布物は、問題冊子(A4, 3枚)、解答用紙(B4, 4枚)、草案用紙(B4, 4枚)です。
2. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
3. 出題数は①, ②, ③, ④の4題で、4題とも解答してください。
4. 試験開始後、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答用紙が不足する場合には裏面を使用することができます。
6. 問題冊子と草案用紙は持ち帰ってください。

1 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 6 & -6 \\ 1 & 2 & 2 \\ -1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ について、次の各問いに答えよ.

- (1) A の固有値と各固有値に対する固有空間を求めよ.
- (2) 行列 A が対角化可能ならば、 A を対角化する行列 P を求めて、 A を対角化せよ.

2 R^3 を 3次元実数ベクトル空間、 $k \in R$ を定数とし、写像 $f: R^3 \rightarrow R^3$ を

$$R^3 \ni \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \xrightarrow{f} \begin{pmatrix} x_1 + x_2 - x_3 \\ -x_2 + 2x_3 \\ x_1 + x_3 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \in R^3$$

で定義するとき、次の各問いに答えよ.

- (1) f が線形写像になるように定数 k の値を定めよ.

以下、 k は (1) で求めた値とし、 f は線形写像とする.

- (2) f の核 $\text{Ker } f$ を求めよ.
- (3) f の像 $\text{Im } f$ の基底を 1 組求めよ.
- (4) (3) で求めた基底を含む R^3 の基底を 1 組求めよ.

□3 a を正定数とし, $D = \{(x, y) \mid 0 \leq x, y \leq a\}$ とする. 以下の各問いに答えよ.

(1) D と $y = x^2$ のグラフを一緒に図示せよ.

(2) D 上の2変数関数 $f(x, y)$ を

$$f(x, y) = \begin{cases} x^2 & (x^2 \geq y) \\ y & (x^2 < y) \end{cases}$$

と定義する. 定積分

$$\iint_D f(x, y) dx dy$$

を求めよ.

□4 数列 $a_n = n \sin\left(\frac{1}{n}\right)$, $n = 1, 2, 3, \dots$ について考察する. 以下の各問いに答えよ.

(1) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ を求めよ.

(2) 任意の実数 x を固定し $F(t) = \sin(tx)$ とする. $F(0), F(1), F'(t)$ を求めよ.

(3) $\sin x = x \int_0^1 \cos(tx) dt$ を示せ.

(4) $a_n < a_{n+1}$ となることを示せ.

1 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 6 & -6 \\ 1 & 2 & 2 \\ -1 & 2 & 2 \end{pmatrix}$ について、次の各問いに答えよ。

(1) A の固有値と各固有値に対する固有空間を求めよ。

解. E を 3 次の単位行列とする. A の固有多項式は

$$\det(tE - A) = \det \begin{pmatrix} t-1 & -6 & 6 \\ -1 & t-2 & -2 \\ 1 & -2 & t-2 \end{pmatrix} = (t-4)^2(t+3)$$

なので A の固有値は 4 (重複度 2) と -3 である.

固有値 4 に対する固有ベクトルを ${}^t(x, y, z)$ とすると

$$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 & -6 & 6 \\ -1 & 2 & -2 \\ 1 & -2 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = (x - 2y + 2z) \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

より $x - 2y + 2z = 0$. したがって

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2y - 2z \\ y \\ z \end{pmatrix} = y \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ で } {}^t(2, 1, 0) \text{ と } {}^t(-2, 0, 1) \text{ は一次独立なの}$$

で 4 に対する固有空間は

$$W_4 = \left\{ \alpha \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \mid \alpha, \beta \in \mathbb{C} \right\}$$

同様にして -3 に対する固有ベクトルを ${}^t(x, y, z)$ とすると $x + 3y = 0$, $y + z = 0$ より $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = y \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ で固有空間は $W_{-3} = \left\{ \alpha \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \mid \alpha \in \mathbb{C} \right\}$.

(2) 行列 A が対角化可能ならば、 A を対角化する行列 P を求めて、 A を対角化せよ。

解. $\begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} -3 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$ は一次独立なので、 $P = \begin{pmatrix} 2 & -2 & -3 \\ 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \end{pmatrix}$ は正則行列で、

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 4 & 0 & 0 \\ 0 & 4 & 0 \\ 0 & 0 & -3 \end{pmatrix}$$

2 \mathbb{R}^3 を 3 次元実数ベクトル空間, $k \in \mathbb{R}$ を定数とし、写像 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$$\mathbb{R}^3 \ni \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \xrightarrow{f} \begin{pmatrix} x_1 + x_2 - x_3 \\ -x_2 + 2x_3 \\ x_1 + x_3 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3$$

で定義するとき、次の各問いに答えよ。

(1) f が線形写像になるように定数 k の値を定めよ.

解. $A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 0 & -1 & 2 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$, $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$, $b = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ とおくと

$f(x) = Ax + kb$ と表される.

f が線形写像ならば $f(0) = 0$ なので, $kb = 0$ したがって, $k = 0$ である. $k = 0$ のとき, $f(x) = Ax$ なので $x, y \in \mathbb{R}^3$ と $c \in \mathbb{R}$ に対して

$$f(x+y) = A(x+y) = Ax + Ay = f(x) + f(y), \quad f(cx) = A(cx) = cAx = cf(x)$$

よって, f は線形写像である. ゆえに, $k = 0$ である.

(2) $\text{Ker } f$ を求めよ.

解. $k = 0$ より $\text{Ker } f \ni \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$ ならば, $\begin{pmatrix} x_1 + x_2 - x_3 \\ -x_2 + 2x_3 \\ x_1 + x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ より, $\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix}$. よって, $\text{Ker } f = \left\{ \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -1 \end{pmatrix} \mid \alpha \in \mathbb{R} \right\}$.

(3) $\text{Im } f$ の基底を 1 組求めよ.

解. $a_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $a_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $a_3 = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ とすると

$\text{Im } f = \{ x_1 a_1 + x_2 a_2 + x_3 a_3 \mid x_1, x_2, x_3 \in \mathbb{R} \}$.

a_1, a_2 は一次独立で $a_3 = a_1 - 2a_2$ なので $\text{Im } f = \{ \alpha a_1 + \beta a_2 \mid \alpha, \beta \in \mathbb{R} \}$ したがって $\{ a_1, a_2 \}$ は $\text{Im } f$ の 1 組の基底である.

(4) (3) で求めた基底を含む \mathbb{R}^3 の基底を 1 組求めよ.

解. $\alpha a_1 + \beta a_2 = \begin{pmatrix} \alpha + \beta \\ -\beta \\ \alpha \end{pmatrix}$ より $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \notin \text{Im } f$. よって, $a = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ とおくと, a_1, a_2, a は一次独立で $\dim \mathbb{R}^3 = 3$ より $\{ a_1, a_2, a \}$ は \mathbb{R}^3 の 1 組の基底である.

3 a を正定数とし、 $D = \{(x, y) \mid 0 \leq x, y \leq a\}$ とする。以下の各問いに答えよ。

(1) D と $y = x^2$ のグラフを一緒に図示せよ。

(2) D 上の 2 変数関数 $f(x, y)$ を

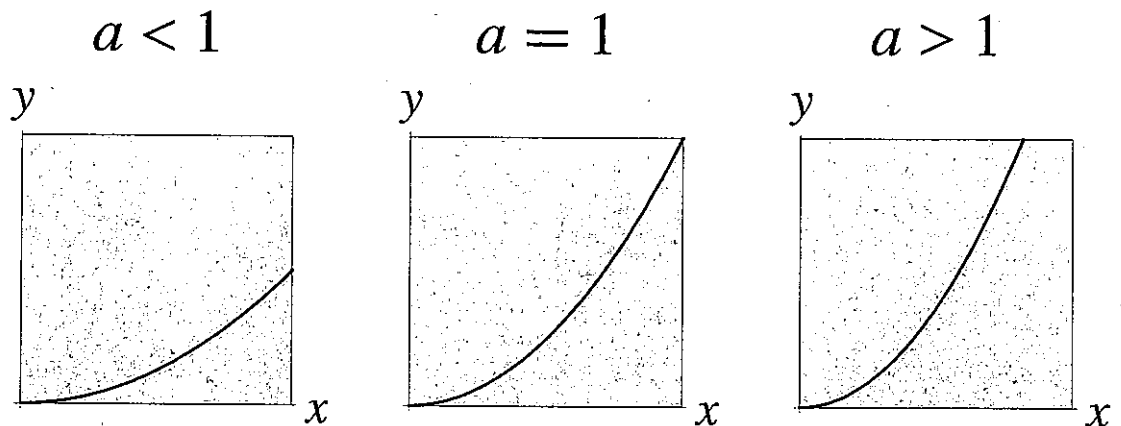
$$f(x, y) = \begin{cases} x^2 & (x^2 \geq y) \\ y & (x^2 < y) \end{cases}$$

と定義する。定積分

$$\iint_D f(x, y) dx dy$$

を求めよ。

解答例 (1) 商用計算機ソフト MATHEMATICA で作成した図を示す：



(2) $a < 1$ の場合と $a \geq 1$ の場合に分けて計算する。

* $a < 1$ の場合、 D を D_1 と D_2 に分ける：

$$D_1 = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq a, x^2 \leq y \leq a\}, \quad D_2 = \{(x, y) \mid 0 \leq x \leq a, 0 \leq y \leq x^2\}.$$

$(x, y) \in D_1$ のとき $f(x, y) = y$, $(x, y) \in D_2$ のとき $f(x, y) = x^2$ であり、 D_1 と D_2 をそれぞれ縦線領域とみることにより、

$$\begin{aligned} \iint_D f(x, y) dx dy &= \iint_{D_1} f(x, y) dx dy + \iint_{D_2} f(x, y) dx dy \\ &= \int_0^a \left\{ \int_{x^2}^a y dy \right\} dx + \int_0^a \left\{ \int_0^{x^2} x^2 dy \right\} dx \\ &= \int_0^a \left[\frac{y^2}{2} \right]_{x^2}^a dx + \int_0^a x^4 dx \\ &= \int_0^a \left(\frac{a^2}{2} - \frac{x^4}{2} + x^4 \right) dx \\ &= \int_0^a \left(\frac{a^2}{2} + \frac{x^4}{2} \right) dx \\ &= \frac{a^3}{2} + \frac{a^5}{10}. \end{aligned}$$

* $a \geq 1$ の場合. D を D_3 と D_4 に分ける:

$$D_3 = \{(x, y) \mid 0 \leq y \leq a, 0 \leq x \leq \sqrt{y}\}, \quad D_4 = \{(x, y) \mid 0 \leq y \leq a, \sqrt{y} \leq x \leq a\}.$$

$(x, y) \in D_3$ のとき $f(x, y) = y$, $(x, y) \in D_4$ のとき $f(x, y) = x^2$ であり, D_3 と D_4 をそれぞれ横線領域とみることにより,

$$\begin{aligned} \iint_D f(x, y) dx dy &= \iint_{D_3} f(x, y) dx dy + \iint_{D_4} f(x, y) dx dy \\ &= \int_0^a \left\{ \int_0^{\sqrt{y}} y dx \right\} dy + \int_0^a \left\{ \int_{\sqrt{y}}^a x^2 dx \right\} dy \\ &= \int_0^a y^{3/2} dy + \int_0^a \left[\frac{x^3}{3} \right]_{\sqrt{y}}^a dy \\ &= \int_0^a y^{3/2} dy + \int_0^a \left(\frac{a^3}{3} - \frac{y^{3/2}}{3} \right) dy \\ &= \int_0^a \left(\frac{a^3}{3} + \frac{2y^{3/2}}{3} \right) dy \\ &= \frac{a^4}{3} + \frac{4a^{5/2}}{15}. \end{aligned}$$

4 数列 $a_n = n \sin\left(\frac{1}{n}\right)$, $n = 1, 2, 3, \dots$ について考察する. 以下の各問いに答えよ.

(1) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ を求めよ.

(2) 任意の実数 x を固定し $F(t) = \sin(tx)$ とする. $F(0), F(1), F'(t)$ を求めよ.

(3) $\sin x = x \int_0^1 \cos(tx) dt$ を示せ.

(4) $a_n < a_{n+1}$ となることを示せ.

解答例 (1) a_n は $\sin x$ の $x = 0$ と $x = 1/n$ の間の平均変化率であり, $1/n \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$) であるから,

$$a_n = \frac{\sin\left(\frac{1}{n}\right) - \sin 0}{\frac{1}{n} - 0} \rightarrow \frac{d}{dx} \sin x \Big|_{x=0} = \cos 0 = 1 \quad (n \rightarrow \infty).$$

(2) $F(1) = \sin x, F(0) = 0$ である. また, 合成関数の微分法により $F'(t) = x \cos(tx)$ である.

(3) (2) の結果を利用して, $F(t)$ に閉区間 $[0, 1]$ で微分積分学の基本定理を適用すると

$$\sin x = F(1) - F(0) = \int_0^1 F'(t) dt = x \int_0^1 \cos(tx) dt.$$

(4) (3) の結果を用いると, a_n は

$$a_n = \int_0^1 \cos\left(\frac{t}{n}\right) dt$$

と表される. $0 < x \leq 1$ のとき $\frac{d}{dx} \cos x = -\sin x < 0$ であるから $\cos x$ は狭義単調減少である. $0 < t \leq 1, n = 1, 2, 3, \dots$ のとき, $0 < \frac{t}{n+1} < \frac{t}{n} \leq 1$ であるから, $\cos\left(\frac{t}{n+1}\right) > \cos\left(\frac{t}{n}\right)$ となるので

$$a_{n+1} = \int_0^1 \cos\left(\frac{t}{n+1}\right) dt > \int_0^1 \cos\left(\frac{t}{n}\right) dt = a_n.$$